

Press Release

2022年3月29日

報道機関各位



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

広報室

(Tel 0798-45-3533)

(E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp)

武庫川女子大学女性活躍総合研究所による

「MUKOJO 未来教育プログラム SOAR」がスタートします



S O A R

武庫川女子大学女性活躍総合研究所は、女性を取り巻く諸問題についての理解を促す女子総合大学の特色を生かし、独自の「新しい武庫女教育」「MUKOJO未来教育プログラムSOAR」をスタートします。4月6日、7日の新入生オリエンテーションで全新入生に対し、ジェンダーとセクシュアリティの理解や女性のキャリアデザイン、ライフプランに関する導入講義を行い、年間を通じてSOARプログラムを展開します。

SOARとは、英語で「(鳥や飛行機などが) 飛躍する、舞い上がる」「(希望・気分などが) 高まる、高揚する」を意味する動詞で、MUKOJO未来教育プログラムの通称です。

日本では、これまで男女雇用機会均等法や男女共同参画推進基本法、女性活躍推進法等、女性の社会進出を支援する様々な法整備が行われてきましたが、世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数は依然として低いままとなっています。少子高齢化の中でグローバル化やAI技術が進展し、社会は大きな転換期を迎えており、今こそ真の女性の力が求められています。

「MUKOJO未来教育プログラムSOAR」は、このような時代のニーズを受け、学生一人ひとりが女性を取り巻く諸課題に理解を深め、自分らしく一生涯をきり拓いていく力を身につけるために、武庫川女子大学が構築したオリジナルの基盤教育プログラムです。

2022年度のSOARプログラムは、入学式直後の導入講義に始まり、共通教育で「SOAR」の新科目を開講。またキャリアセンター主催のキャリアプログラム（又は講座）で2講座を提供するほか、女性活躍総合研究所が主催する卒業生座談会や国際女性デーMUKOJOフォーラムなど各種イベントを開催します。

SOAR導入講義は4月6、7日、入学式に引き続き4回に分けて全新入生に対し、実施します。女性活躍総合研究所の高橋享子所長によるSOARの概要説明のあと、「ジェンダーとセクシュアリティ」「女性の仕事環境とキャリアデザイン」「女性のライフプランと法律」の3つのテーマで、3人の教授がそれぞれ講義を行います。

導入教育の内容は、共通教育の新しい科目「SOAR 人生100年をきり拓く力」で、さらに詳しく学びます。

4月6日、7日に行われる導入講義（合計105分）の時間割は次の通りです。各回とも内容は同じです。

4月6日（水）13：00～14：45 教育学部、健康・スポーツ科学部、音楽学部、薬学部
15：30～17：15 短期大学部
4月7日（木）10：00～11：45 文学部、建築学部、看護学部
13：30～15：15 生活環境学部、食物栄養科学部、経営学部

場所：中央キャンパス公江記念講堂

テーマと担当者

「SOARについて」 高橋享子

「ジェンダーとセクシュアリティ」 西尾亜希子

「女性の仕事環境とキャリアデザイン」 高橋千枝子

「女性のライフプランと法律」 山本晶子

この模様取材いただくことができます。ご希望の方は下記、広報室までご連絡ください。

この件に関するお問い合わせは
広報室 Tel 0798-45-3533 へお願いします

【ご参考】

3月に学内で本学経営陣を前に導入教育のリハーサルが行われました。

冒頭に女性活躍総合研究所所長で、食物栄養科学部・学部長の高橋享子教授が、SOARの趣旨を説明。4月1日の民法改正を受け「今日から皆さんは自分に責任を持つ大人です」と大人になったことの自覚を促し、「SOARで楽しく仲間をつくり、自分らしく生き生きと学び、一生涯をきり拓く力をつけましょう！」とこれから始まる大学生活へのエールを送りました。

続いて「ジェンダーとセクシュアリティ」と題して講義した共通教育部の西尾亜希子教授は、大学の女子学生受け入れの歴史について「世界的に大学は男子のために開学し、女子の受け入れは多くは1900年代後半になってから。女性が長く学びから遠ざけられていたから、女子大学が必要だった」と振り返り、女子大で学ぶメリットについて「女性に特化したテーマを学ぶ機会が多い」ことを挙げました。また、自分の中に、男女で評価が異なるダブルスタンダードや無意識の偏見があることに気づくことがジェンダー平等の第一歩としたうえで、LGBTQ+やSOGIEをはじめ、多様性を理解することが、自分と他者の「ありのまま」を受け入れることにつながると呼びかけました。

次に「女性の仕事環境とキャリアデザイン」と題して講義した経営学部の高橋千枝子教授は、日本における男女格差の現状や女性が活躍しにくい原因や潜在意識などを紹介し、「女性はこう生きるべきという思い込みは、今日から捨ててください！」と訴え、日本社会は変わりつつあり、「企業は事務職の採用を減らしている」と指摘。将来、AIやロボットが単純作業や事務職を担うと考えられることから、AIに代わる仕事・生き残る仕事の例を示しながら「補助的職種ではなく、自分が主体的に取り組める仕事や職種をめざすべき」と、どんなキャリアデザインを描くか考えながら大学生活を過ごすよう提言しました。

最後に「女性のライフプランと法律」を題した講義した共通教育部の山本晶子教授は、「これからの女性は、モデルのない人生を自分で決断しなければならない」と指摘。女性が出産退職後、復職した場合と、産休・育休後に復職した場合の生涯所得など、働き方による生涯所得の違いを具体的に示し、「女性は生涯を通じて貧困に陥りやすい。女性を支援する制度や法律を知り、自分の人生の選択に備えてほしい」と語りかけました。



高橋享子教授



西尾亜希子教授



高橋千枝子教授



山本晶子教授